

# 科技高 いきもの記

Vol.30 2021.6.24

佐藤龍平

## 地中に潜む強面のハンター ワスレナグモ



巣穴からこちらを覗く

猿江公園でツチスガリ（いきもの記Vol.29参照）を観察していた時、ツチスガリの巣穴よりも少し大きくて、内側が白く見える穴が地面にありのを見つけた。調べてみると、**ワスレナグモという地中に住むクモが作った巣**であることが分かった。すぐにクモ好きの卒業生のリホに聞いてみると、「在学中に猿江を探した時には見つけられなかった。すごい！」と驚かれた。今回はツチスガリを見ている時にたまたま目に入ったわけだが、このクモをピンポイントで狙って見つけるのは難しいらしい。穴が白く見えたのはクモの糸で、こうやって**地面に穴を掘って巣を作る**タイプのものもいるのだそうだ。これは面白い！なんとか姿を見てみたい！と思いき、観察を始めた。

夜行性だということで、夜に再び見に行くこと、巣穴の入り口に黒い大きなキバ（大アゴ）を持つクモの姿が見えた。近づいて刺激するとすぐに穴の奥に引っ込んでしまう。木の枝で入り口あたりをつついてみると、獲物が近づいてきたと勘違いしてまた顔を覗かせた。どうやら振動を察知して獲物の接近を知るらしい。でも、木の枝ではそれ以上反応はせず、なかなか出てきてくれない。

しばらく観察を続けていて、巣穴の近くをワラジムシが通りかかった時、**衝撃的な光景を目にした**。それまでじっとしていたワスレナグモが弾けるように素早く大アゴを振りかざし、**ワラジムシを一瞬にして引きずり込んでしまったのだ**。あまりの素早さに、すごいものを見てしまった…としばらく動悸が治まらなかった。

ワスレナグモはワスレナグモ科（昔はジグモ科としていた）に属するクモで、体長は2cmくらいでずんぐりした体型と大きな鎌状の大アゴをもつ。クモの中では原始的な種だそうで、熱帯のタランチュラとも近縁のクモだ。1906年に初めて発見された後、十数年に渡って採集されず忘れられてしまったため、「**忘れぬように**」という意味でこの名前をつけたらしい。なんとも面白い名前の付け方だ。ワスレナグモは、地面に深さ10cm以上の縦穴を掘り、その穴の内側を白い網で裏打ちした巣を作る。系統的に近いジグモも管状の細長い巣を作るが、こういったヘンテコな形の巣を作るクモは、英語では**purseweb spider**（巾着状の巣を作るクモ）と呼ばれているそうだ。完全な**待ち伏せ型のハンター**で、体全体が巣から出ることにはほぼない。巣の近くをたまたま獲物を通るなんてそうそう無いだろうから、絶食にはかなり強いのだと思う。かつては東京でも数多く見られたそうだが、近年は多くの地面がコンクリートで固められてしまって数が減り、環境省のレッドデータブックでは「**準絶滅危惧種（NT）**」に指定されるようになってしまった。猿江公園などの都市公園は、こういった生物にとっては僅かに残されたオアシスなのだろう。

### ワスレナグモのメスがワラジムシを捕まえた瞬間

地中の巣穴から飛び出し、鎌状の大きなアゴで獲物をガッチリ押さえ込んでいる。このあと一瞬で獲物を巣に引きずり込む。



獲物にとびかかる直前

### ワスレナグモの捕食行動（動画撮影したものから切り出し）



①巣穴から頭と脚だけ出した状態。入り口で待機し、近くを通る獲物に狙いを定める。 ②鎌状のアゴを大きく振り上げる（矢印）。

③鎌を振り下ろして獲物を挟み込む（矢印）。 ④一気に巣穴に引きずり込み、見えなくなりました。

①～④の過程は0.5秒くらいの早技だ。多くのクモは大アゴが横に開くのに対し、原始的なワスレナグモなどのグループだけが縦に動くため、このような狩りの動きをする。